



みゆき

小松市立御幸中学校

学校だより

NO. 6

令和2年9月8日

文責：校長 河南光昭

「掃除」を考える。

昨日も清掃オリエンテーションがあったと思いますが、学校生活の中で欠かせないのが「掃除」です。私たちの生活空間を快適に守る意味で大切な時間なのですが、今日はこの「掃除」について考えてみようと思います。

同じ意味の言葉として扱われることが多い「掃除」と「清掃」ですが、どちらも「きれいにする」という点では同じです。ですが、本来はその意味に少し違いがあるようです。



「掃除」は、目に見えるゴミや汚れがある場所をきれいにすることをいいます。また、「清掃」は薬剤などを使用し、見えないところまできれいにすることをいいます。

「掃除」は、対象範囲が比較的狭いです。一般的にはゴミ捨てや汚れを落とすこと、散らかっているものを片付けることなどを指します。辞書でその意味を調べてみると、「掃いたりふいたりして、ごみやほこり、汚れなどを取り去ること」とあります。

「掃除」は、もともと中国語で「ソウジョ」と読み、「払う・拭(ぬぐ)う」という意味がありました。それがのちに現代の掃除(ソウジ)の意味になったのです。

「掃除」は「清掃」に比べてより身近で日常的な場面で使われることが多いです。たとえば、自宅の部屋や玄関の掃除、掃除機がけやお風呂掃除などは、掃除に当てはまります。自分の部屋を片付ける時など部屋を掃除するとは言いますが、部屋を清掃する、とはあまり言いませんよね。したがって、掃除は比較的狭い範囲で見える場所をきれいにするをいい、誰もが気軽にできるものがほとんどです。



それに対し「清掃」とは、薬剤などを使用し、見えない場所まできれいにするをいいます。より念入りに、隅々まできれいにするという点で、「掃除」とは異なります。

「清掃業者」はいますが、「掃除業者」はいません。それは、「清掃」が、普通の人がかなかできない範囲まで念入りにきれいにする行為だからです。「清掃業者」は、薬剤などを使ってきれいにしたり、細部まで点検をしたり、清潔な状態を保つための予防を行ったりもします。

このような意味からすると、私たちが普段「清掃時間」で行うのが「掃除」であり、学期末や儀式の準備の際に行うのが「清掃」かもしれません。



本校でもそうですが日本では、生徒達が「清掃時間」に自分達で清掃をする学校が多いと思います。私も子どもの頃、時間割にあるからという理由で何となく掃除をしていた気がします。そこは日本人には当たり前の感覚なのかもしれませんが、「自分たちが生活する場所は、自分で綺麗にする」という意味合いが込められていると思います。

日本の学校にある清掃時間は、日本文化の一つということができる習慣だそうです。日本人にとっては馴染みがありますが、海外では生徒ではなく清掃専門のスタッフが教室等を含め、全てを清掃することが多いとのこと。日本の生徒たちが自分たちで清掃をするということには、ただ「場所を綺麗にする」だけではなく他の教育効果も込められているようです。

日本に滞在経験のある外国人の声を拾ってみると、

- 日本で英語教師を3年ほどしたことがある。自分も掃除に参加したが、すばらしいシステムだと思ったよ。子どもに学校をきれいにすることを教えられるし、このことによって丁寧に扱うようになるよ。自分が掃除するところにゴミなんか捨てないからね。
- 学校は教科書から学ぶだけの場所ではない。社会の一員として、自分自身に責任を持つことを学ぶ場所でもあるのだ。
- 身の回りのものを丁寧に扱うことを覚えることができる。もし自分で掃除しなければならないのなら、雑に扱ったりしないから。

日本のような習慣がない海外の人たちだからこそ、違いに気づきその良さを発見しているようです。私たちも改めてこの日本文化が持つ重要性を考え直すことができますね。また、次のようなことを述べている外国の方もおいでます。

- 『学校掃除』には、清潔の習慣の育成、公共心の育成、健康の増進、勤労の体験などの教育的効果が認められる。つまり、掃除は人間形成にとってきわめて重要な意義をもつものであり、児童・生徒による学校掃除は日本の教育の伝統的な特色をなしている。

例えばある教育論者は、掃除を一生懸命することによって、5つの良いことがあると語っています。

- 一つ : 気づく人になれる
- 二つ : 心を磨くことができる
- 三つ : 謙虚になることができる
- 四つ : 感動の心を育むことができる
- 五つ : 感謝の心が芽生えてくる

これを「5K」と称するそうです。

清掃活動が基本的な生活習慣の形成などの日常生活の実践に結びつく教育的効果をもっていること。分担と実践の教育活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、責任感を育成するとともに、教師と生徒、生徒相互の触れ合いを深めていること。そして何より自分自身の心を磨くこと。このように「掃除」のもたらす効果はとても大きいものであり、清掃時間では、責任感など基本的な人格形成に必要なことを知らず知らずのうちに学ぶことができるということですね。



学校生活で最も使用頻度が高い場所ってどこでしょう？ それは玄関と階段、そしてトイレだと思います。人によってはその他の場所を示す人もいますが、自分の使用頻度を思い描くだけではなく、多くの人が必ずと言っていいほど利用する場所です。そして、そこには週替わりであれ、月替わりであれ、必ず掃除担当の人が割り当てられているかと思います。

私は出張等でたびたび、市内外の小学校や中学校を訪問する機会があります。そしてその際に、必ずすることがあります。それはその学校のトイレを利用することです。まして、初めて訪問する学校では必ずお世話になります。

それは用を足すという目的のみならず、トイレの状況によって、その学校の生徒の様子が少なからず見えてくるからです。前述した「自分たちが生活する場所は、自分で綺麗にする」ということからすれば、最も綺麗でなければならない場所だからです。

学校や生徒の様子をうかがう「ものさし」としては、あいさつの良さであったり、授業中の落ち着きや真剣な様子であったり、掲示物の出来であったり、職員室の雰囲気であったりといくつかあるのですが、中でもトイレの状態を観察すると、まず間違いのない答えが得られます。



もう10年ほど前になりますが、NHK紅白にも出場した植村花菜さんの『トイレの神様』が話題となりました。その歌詞の中に「トイレには、それはそれはキレイな女神様がいるんやで。だから、毎日キレイにしたら女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで。」という箇所があります。もちろんべっぴんさんですから容姿端麗ようしたんれいなところも含んでいるでしょうが、ここでは「心の美人」を指しているものと思います。

トイレ掃除のあり方に関しては、世の多くの企業家も注目しています。とある経営コンサルタントの方は、次のように語っています。

飲食業界においては『トイレはその家の心』といわれるように、お店で働くスタッフの意識・心構えをトイレから見て取ることができます。いちばん汚れる場所の掃除が行き届いていれば、厨房で働く人も清潔で食器などもピカピカに違いないと思わせます。顧客満足度を上げるためには、清潔で快適なトイレをキープすることが絶対条件です。繁盛する店には、その店を印象づける強み（個性）があるものです。それは看板メニューであったり、名物店主であったりさまざまですが、「きれいなトイレ」が強みという店もあります。「あの店のトイレに入りたい」と思われることは「あの店の〇〇料理が食べたい」といわれることと同等の価値があるのです。

とりわけ競合の激しい飲食業界においては、他店にはないサービスや快適性といった付加価値を提供することが重要で、ただ料理の味にこだわるだけでは時代に取り残されてしまいます。お客さまに「また来たい」と思ってもらうためには、衛生管理のルールを作り、きれいなトイレを維持することが大切です。」

となれば、「学校の顔」ともいえる「玄関」「階段」はもとより、「学校の心」ともいえる「トイレ」をいつも綺麗にしながら、ここに生活する私たち一人ひとりが、「心の美しい人」に近づいていけたら素敵なことだと思います。

ちなみに、トイレ掃除の点検項目を右に示しますが、トイレ担当になったら気をつけてみてください。



トイレ掃除の点検項目

- 1 鏡・洗面台は汚れていないか
- 2 便器は汚れていないか
- 3 壁は汚れていないか
- 4 床は汚れていないか
- 5 トイレトペーパーは足りているか
- 6 ペーパータオルは足りているか
- 7 ゴミ箱はいっぱいになっていないか

あと余談ですが、こんな話もあります。

「あなたがトイレの個室にいて、自分が使用した後にトイレットペーパーがなくなりました。そんな時、次の人のために予備のトイレットペーパーに常に交換できますか？」との問いかけに、皆さんは「YES」or「NO」、どちらでしょう？

大人でもこのことを常にできる人は全員ではありません。忙しかったり、次に使用する人が交換すればいいと思ったりと、結構できない人もいます。トイレの個室にいたので、トイレットペーパーを交換しなくても誰にも叱られないし、逆に交換したからといって誰からも褒められるわけではありません。そんな状況で、自分の貴重な時間を他人のために使い、いつでもトイレットペーパーを交換できる人って素敵ですね。皆さんもちょっと気に留めて、心掛けてみてはどうでしょうか。

